

磐城時報

日刊 廿七 日
編輯者 石城郡平町新屋町十四
印刷者 石城郡平町新屋町十四
電話 二四二
代印所 磐城時報社
行 所 磐城時報社
一 部 金 五 十 銭
一 月 金 五 百 銭
一 年 金 五 千 銭
日刊 (日曜、祭日) 休刊

急遽幹部會を開き 野崎縣議を除名

來る縣議戰の對策が 一般で成行きを注目

石城民政黨では二十六日正午から平町に比佐陸軍參與官の任官祝賀會を開くに先立ち午前十時から平町南町民政俱樂部に於て急遽幹部會を開き左の如く役員を選挙した上縣會議員野崎滿藏氏を部會の規約を亂すものとして除名處分に附す件、外數項を決議したので一般では成行きを注目してゐる、新役員並に決議左の如し。

▲會長若松美三、副會長吉田五平、石川德壽、▲幹事長萩原義雄、▲常任幹事荒川淺次郎、吉村安次郎、鈴木盛之助、村上榮、木田藤次郎、稻廣吉若松孝平、根本林平、竹島藤平、小川福太郎、赤津修一、木田剛、近藤吉松、國井忠太

▲評議員會長藤清昇、▲副會長永山久助、▲政務調査部長新妻盛、▲副部長金成爲喜、▲遊説部長吉田寅之輔、▲部長高木武衛

▲顧問草野三郎、大平陸四郎、菅波忠治、植田萬次郎、小泉三代喜、眞木桓

▲決議
一、本年九月執行せらるべき縣會議員選舉には候補者三名を推薦し極力其當選を期す
二、石炭運賃値下げの實現を期す
三、鮫川淡水漁港修築速進を期す
四、植田、石川間自動車道路の完成を期す
五、野崎滿藏君は黨規を亂し不都合の所爲ありと認め部會規則第八條により之を除名す。

野崎氏にとつては 却つて有利である

勢力を恐れた証據 平町某町會議員談

縣會議員野崎滿藏氏除名の件について野崎氏派と見られてゐる平町某町會議員は語る

「野崎君を除名したといふ話は今日聞いた、然し若松君や萩原君等の一派は以前から吾々を認めてゐないといふ自稱してゐたのに今更改めて除名とはおかしな事である。結局野崎君の勢力を認めてゐた事になり將來の勢力を恐れてゐるといふわけであらう。公平な見地から言へば除名だなんて大勢を失墜、而もその總會は吾々には何等の通知なく集つた者四十名しかなくかつたといふから吾々としては之が對策を講ずるやうな馬鹿氣な態度には出ない。

木村代議士全都に巨り 議會報告の演説

本部的特派員來援

石城政友部會では二十六日午後二時から平町三丁目事務所にて幹部會を開き木村代議士、安島重三郎、井上茂作、山崎吉平の他出席協議の結果木村清治代議士の議會報告演説會を開催する件について協議した、來る五月一日大浦村を振出しに四倉、草野、平、好間、内郷、小名濱、泉、植田、勿來、江名等各町村で開催する案で辯士は木村代議士の外井上茂作、安島重三郎その他で平、四倉、植田、勿來、小名濱、内郷等代表町村では特別名簿、内郷等代表町村では特別名簿から各名士の來援を乞ふ事になった。

▲小川村 (定員二名)
柴崎佐之吉、白石榮吉

▲神谷村 (定員五名)
箱崎具吾、中野徳吉、片寄喜助、片寄伊之次郎、西山喜代太

▲大浦村 (定員五名)
酒井良平、箱崎徳八、根本直之助、岡田廣吉、片寄甚松

▲草野村 (定員八名)
高田忠、富岡市平、高崎唯一郎、芳賀元治、猪狩米造、渡邊重彌、坂本房義、松本定之助

▲四倉町 (定員一名)
長谷川勇太郎

▲平窪村、大野村 (未着)

自動車ボンブ 披露式

平消防組で新たに購入した自動車ボンブは二十八日平町に到着するので二十九日午前十時から石城郡農會で五月二日山崎延吉氏を吉氏を招き神谷小學校で農業講演會を開催する。

山崎延吉氏 神谷で講演

既報相馬郡石神村大字長野字洞日、原町、小高町で開催本部が七七〇番地農渡邊まつ(三五)が二十四日夜就寝中鈍様のものが頭部を刺られ惨死してゐるのを二十五日一緒に寝てゐた子供等が発見まつの實家に知らせたのが午前九時原町署の活動となり、同日から隣家の松下勝三(三八)が行衛不明となつたので同人の所爲と睨み行衛捜索中の處二十六日原町署の手に捕はれた、取調べの結果まつは勝三に三十圓を貸したが最近催促するのこ近頃は情交をも拒むやうになつたので憤慨の結果兇行に及んだものである。

胴体を縛りつけて 明大生 鐵道心中

洋裝美人 鐵道心中 植田町に滞在した男女

植田町に滞在した男女

署から佐藤部長が出張検視の結果男は明大學生の正服正帽にレインコートを着長髪の青年、女は小柄な下髪の美人で所持品としては男のポケットに第一貯蓄銀行の預金帳と「みるひこのこゝろにまかせおきて、たかねにすめるあきのつきかなーしげ雄まつ代」と書いたハーカーチーフがあり、二十二日夜から植田驛前渡邊屋旅館に滞在した兩人らしく宿帳には東京市外上目黒一七七〇野崎重雄(二五)前田みさ子(二五)らしく照會中、屍體は勿來町役場で假埋葬した。

石神の寡婦殺し 犯人遂に捕はる

既報相馬郡石神村大字長野字洞日、原町、小高町で開催本部が七七〇番地農渡邊まつ(三五)が二十四日夜就寝中鈍様のものが頭部を刺られ惨死してゐるのを二十五日一緒に寝てゐた子供等が発見まつの實家に知らせたのが午前九時原町署の活動となり、同日から隣家の松下勝三(三八)が行衛不明となつたので同人の所爲と睨み行衛捜索中の處二十六日原町署の手に捕はれた、取調べの結果まつは勝三に三十圓を貸したが最近催促するのこ近頃は情交をも拒むやうになつたので憤慨の結果兇行に及んだものである。

相馬支局通信

藥劑士會視察

石城藥劑士會總會は二十六日午後二時から平町マルトモホールで開き常任幹事一名を増員し山野邊東次郎氏を推し醫藥分業運動の件、業權確立の件その他を協議した。

如來寺の牡丹

四倉町如來寺壇百十五種一千二百本は五月中旬開花するが本年は植樹後五ヶ年を経過するので例年にならぬ美觀を呈するであらうと。

春季清潔法

相馬郡石神村春季清潔法は廿六日執行した。

大假裝行列

四倉町磐城セメント工業所稻荷神社祭典は二十八日、二十九日兩日執行する、が人氣を呼んでゐるのは百五十名が参加する大假裝行列で、その他提灯行列、山車等の催しもある。

平町人事

死亡

北目町仙臺市靈屋下加藤知代(三三)、白銀町當時東京府在原郡在原町馬目(三二)

軍人活動寫眞

在郷廿五日午後七時二十一分頃常磐線客車に、女は何れも二十一二時半から平町聚樂館で基金募集列車が關本、勿來間勿來の關跡飛込み女は兩足大腿部、男は右の活動寫眞會開催するが、映畫に通ずる踏切りに差かゝりし際足大腿部を轢断され無慘を極め、身元その他については植田

伏見町長出席

平町長伏見彦術氏は二十八日、二十九日兩日若松市に開かる、縣下町村長大會に席の爲ため二十七日午前十一時十八分發列車で出發した。

軍人活動寫眞

在郷廿五日午後七時二十一分頃常磐線客車に、女は何れも二十一二時半から平町聚樂館で基金募集列車が關本、勿來間勿來の關跡飛込み女は兩足大腿部、男は右の活動寫眞會開催するが、映畫に通ずる踏切りに差かゝりし際足大腿部を轢断され無慘を極め、身元その他については植田

